

## 肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究

研究分担者：西村 知久

医療法人 YT 美川眼科医院

**研究要旨：**眼科は全診療科の中で最も多くの手術を行っており、術前検査で肝炎ウイルス検査を行う機会が多い診療科である。今までの研究で、いくつかの都道府県においては、術前検査時に肝炎ウイルスに関する血液学的検査を行った患者を対象に、陽性者については肝臓専門医およびかかりつけ医への受診勧奨を行い、陰性者については陰性結果の告知を行っている。そのような取り組みは、眼科においてもすべての都道府県で徹底されていないのが実情である。そのため、公益社団法人日本眼科医会において、全国的な啓発活動を展開している。その一貫として、公益社団法人日本眼科医会のホームページから肝炎の受診勧奨を行うために必要な資材をダウンロードして使用できるようにした。この資材を周知して肝炎陽性者の確実な受診勧奨と陰性者への説明徹底していきたい。

### A. 研究目的

眼科は全診療科の中で最も多くの手術を行っており、術前検査で肝炎ウイルス検査を行う機会が多い診療科である。このような背景から、この研究班では、眼科診療における肝炎ウイルス陽性者の受診勧奨の取り組みを行っている。公益社団法人日本眼科医会としても、令和3年度以降、事業計画の中にこの研究に対して協力を行うことを盛り込んでいる。眼科の患者は高齢の方が多く、肝炎ウイルス陽性率が高い。眼科医が受診勧奨の協力を行うことで、肝炎撲滅に貢献できると考えており、眼科における受診勧奨システムの拡充に努めたいと考えている。

### B. 研究方法

公益社団法人日本眼科医会の会員である眼科医は、その多くは眼科専門医であり、肝炎に対する最新の知識や患者への説明が困難な場合もある。受診勧奨を行いやすくするためには、患者説明用の資材を作成し、届けることが重要であり、今回、資材作成及び資材利用のシステムを作成した。

### C. 研究結果

「肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究」の研究班が作成した患者説明用の資材を一部改編し、全国の都道府県で使用できるものとした。その説明用資材や患者に渡す資料、診療情報提供書のひな型、陰性カードを、公益社団法人日本眼科医会のホームページ上に掲載し、公益社団法人日本眼科医会の会員である眼科医がダウンロードして使用できるようにした。



図1：陽性者にお渡しするリーフレット



図 2：陽性者にお渡しするリーフレット



図 6：陰性結果説明用カード

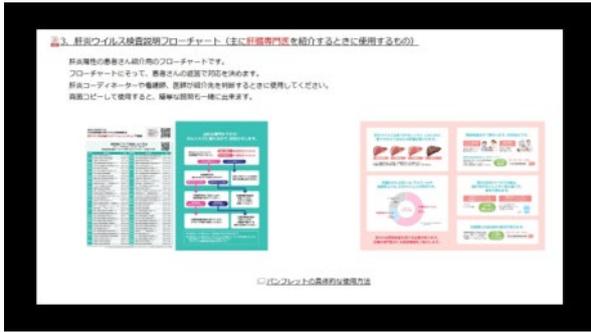


図 3：肝炎ウイルス検査説明フローチャート（主に肝臓専門医を紹介するとき使用するもの）

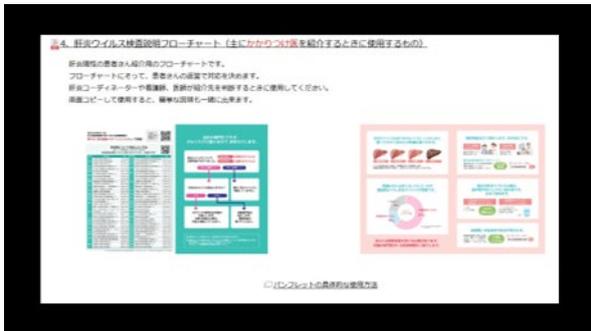


図 4：肝炎ウイルス検査説明フローチャート（主にかかりつけ医を紹介するとき使用するもの）



図 5：陽性者診療情報提供書

## D. 考察

今回、眼科向けの資材を調整して、全国の都道府県で使用できる形とした。今後、一定期間をおいて、公益社団法人日本眼科医会のホームページの閲覧数や資材のダウンロード数を調査するとともに会員向けのアンケート等を行って、改善点や改良点を検討したいと考えている。

## E. 結論

眼科における肝炎ウイルス陽性者の受診勧奨システムや陰性説明については、一部地域では実施率が向上しているが、全国的にみると啓発が必要な地域も多く認められている。今回立ち上げたシステムを利用し、眼科の全国学会や全国各地での講演などを通じて、肝炎ウイルス陽性者の受診勧奨システムや陰性説明の具体的な方法について、全国に浸透させていき、確実な受診勧奨を行っていきたい。

## F. 政策提言および実務活動

なし

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

なし

### 2. 学会発表

なし

### 3. その他

啓発資材

なし

## 啓発活動

1. 西村知久 Ochanomizu Ophthalmic Seminar 当院における肝炎対策  
2023.9.16
2. 西村知久 石川県眼科医会Webセミナー 当院における肝炎対策  
2024.2.8

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし